

1月・2月の管理ポイント

 ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第73号

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り致します。

昨年は、過去に例がないくらい台風・地震と災害が続いた年でした。

「災」が、2004年を表す漢字となったくらいです。

ゴルフ場でも除草剤、殺菌剤の散布時期に台風が重なり、雑草、ラージパッチが激発したコースも少なくなかったようにきいています。

また、猛暑でもあったため、高温・乾燥によるドライスポットが多発したり、害虫ではツツガ、ヨトウなどの鱗翅目が全国的に大発生した年でもありました。

何かと苦勞の多い1年でしたが、2005年は、気持ちも新たに素晴らしいコースを造っていきましょう!!

本号は、年初めでもありますので、今シーズンの**プライマーセレクト**による効率的な水管理をご提案させていただきます。

1~2月

乾燥が激しいので、グリーン表面が乾いた状態が続きます。

ほっておくと冬場でも芝生表面が撥水し、乾燥害の原因となります。

水をやりすぎると霜害、凍害になりますので、**プライマーセレクト**を処理し、少量散水での均一な浸透を実現させましょう。

使用量：1~2ml/m² 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月~1ヶ月半に1回

3~5月

春の水管理が芝生の根をしっかり伸ばすポイントです!!

グリーンを表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え下層にある水分まで根を伸ばさせます。

プライマーセレクトによりマトリックスフローを形成した土壌では、表層を乾燥状態にしても、一度の灌水で均一に水が浸透しますから安心して灌漑管理をして頂けます。

散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして一度に充分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなる。

使用量：1~2ml/m² 散布水量：200ml~1L/m² 散布回数：1ヶ月~1ヶ月半に1回

6~9月

6月~7月上旬は、梅雨の過湿状態を改善します。

又梅雨明け後は、グリーンが一気に高温・過湿状態となり、蒸れて病気や根腐れを引き起こすので、予め**プライマーセレクト**処理により余分な土壌水分を排除し、過湿状態を改善します。

8~9月は高温・乾燥が続くため、ドライスポットの予防のため**プライマーセレクト**を処理します。

使用量：1~2ml/m² 散布水量：200ml~1L/m² 散布回数：1ヶ月に1回

10~11月

春同様、芝生の生育期なので、表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え、根を下層まで伸ばさせます。

使用量：1~2ml/m² 散布水量：200ml~1L/m² 散布回数：1ヶ月~1ヶ月半に1回

12月

1月、2月同様乾燥が激しいので、グリーン表面が乾いた状態が続きます。

プライマーセレクトを処理し、少量散水での均一な浸透を実現させましょう。

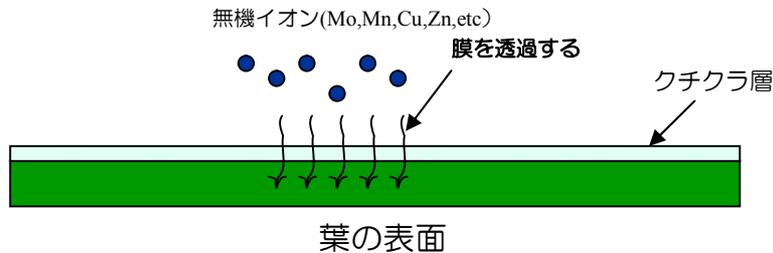
使用量：1~2ml/m² 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月~1ヶ月半に1回

葉面吸収について考えてみよう!!

葉面吸収は、何らかの環境要因(病虫害、根腐れ、土壌の物理化学性)で土壌中の根の養分吸収能力が著しく低下した場合、養分を補給する手段としては大変有効です。

葉面吸収の機構

葉面吸収は、葉の気孔で行われていると思われがちですが、実際は、表皮のクチクラ層(膜)を物質が透過して内部に入っていきます。(植物栄養土壌肥料大事典より参照)



葉面吸収における尿素の特異性

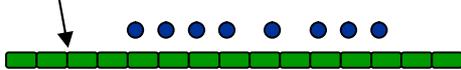
尿素は、通常は無機イオンに比べて10~20倍も速やかに透過し、さらに尿素と無機イオンを同時に施用すると、無機イオン(Mo, Mn, Cu, Zn, etc)の吸収も速くなる。

この現象は、尿素自体の分子量の小ささもありますが、クチクラを形成している分子間の結合を変化させ、膜の構造を粗くする働きがあると考えられています。

(植物栄養土壌肥料大事典より参照)

クチクラ膜

■ クチクラ分子(クチンと呼ばれる)

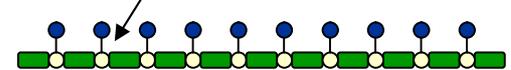


- 無機イオン
- 尿素

尿素を混用



クチンとクチンの結合が粗くなる



膜を通過しやすくなる

クチクラ膜を形成している分子間の結合が密のため、無機イオンの吸収も遅い。

尿素の働きで分子間の結合が粗くなり、無機イオンの吸収も速くなる。